



生徒代表が加担防止宣言を読み上げた

特殊詐欺の加担防止宣言

県内初・桜坂高校「誘いきっぱり断る」

中高生らを特殊詐欺の「受け子」「出し子」として加担させるケースが全国的に相次いでいる。石巻署は12日、石巻市立桜坂高校

（熊谷聡也校長・生徒342人）で加担の要員である闇バイトの危険性を伝える非行防止講話を実施。代表生徒が県内初となる「加担防止宣言」も行い、犯罪に関わらない生活を送ることを誓い合った。

昨年、全国では477人の20歳未満が特殊詐欺に加担したとして検挙された。最も多いのが無職者207人だが、中学生26人（5.5%）、高校生131人（27.5%）で中高生が全体の3分の1を占めた。

特殊詐欺に関わるきっかけで最も多いのは「闇バイト」と呼ばれるもの。SNSで高額な日当を目玉にアピールし、受け子や出し子、引き子として雇うケースが多く、昨今は強盗事案にも闇バイトが関わっている。石巻署少年健全育成官の亀山岳也さん

は「闇バイトで雇った中高生が詐欺グループに使い捨てにされている」と指摘。「高額日当にひかれ、闇バイトに応募した時点で犯罪グループに個人情報が行き渡り、学校や親の動機先への押しかけなど一生ゆすられながらの生活になる」と訴えた。

講話後、同校家庭クラブの役員3年生同ク

ラフの木村涼夏代表ら4人が「闇バイトの誘いはきっぱり断り、犯罪行為に加担せず、トラブルに巻き込まれたらすぐ相談する」と犯罪の加害者や被害者にならないための宣言を実施。木村代表は「趣味や推し活などの理由で金欠という話題は意外と身近でも聞かれる。それでも闇バイト

に手を出さないよう友だち、生徒間で声掛けする」と語っていた。石巻署は高校や石巻専修大でも宣言を行えるよう調整していく。

【横井康彦】